

1. 概要

研究会活動の一つとして、福島関連施設を訪問し、現地の状況を把握すると共に、技術者との意見交換を行う機会としてきている。平成29年度には平成27年度に続いて2回目の福島第一原子力発電所（以下1F）の視察を行って、汚染水対策や廃炉に向けた作業の状況を把握してきた。今回は、1Fと同様の津波被害に遭いながら辛くも冷温停止を達成した福島第二原子力発電所（以下2F）の視察を中心に計画した。2Fは炉心溶融を免れたため、原子炉本体により接近した現場への立ち入りを行うことができた。4号機の原子炉建屋に立ち入り、使用済み燃料操作室からガラス越しに使用済み燃料プールを視察した。また、格納容器内のペDESTAL内部に立ち入り、原子炉圧力容器の底部（炉心の直下）にもぐりこむことにより、林立する炉内計装用シンプルや制御棒駆動機構を間近に観察することができた。また、この機会に、富岡町のJAEA廃炉国際共同研究センターと東電廃炉展示館を併せて視察した。今回の見学会は、福島問題研究会の会員11名により研究会活動の一環として企画したものであるが、SCE・Netの会員にも広く参加を呼びかけることとなり、協力企業（花王、三洋化成）やSCE・Net一般会員の9名を加え合計20名（当日1名のキャンセルが出たため実際には19名）での見学会となった。

<日時> 2019年5月20日（月）7:30-18:00

<見学先>

- (1) 東京電力福島第二（第一）原子力発電所
- (2) JAEA 廃炉国際共同研究センター（CLADS）
- (3) 東京電力廃炉資料館

<主催> 化学工学会産学官連携センターSCE・Net 福島問題研究会

<参加費> 4,000円（主に現地交通費として）

宿泊費および宿泊場所までの往復交通費は各自で負担。

<概略スケジュール>

5月19日（日）

18:00 「ホテルルートインいわき駅前」集合、宿泊

5月20日（月）

7:30 いわき駅前発（浜通り交通/バス乗車19名）

9:00 1F、2F着 1F（2名）、2F（17名）に別れて見学

9:30～13:00 1F、2F見学

13:00 2F見学終了 廃炉資料館へ移動（浜通り交通バス）

13:30～14:15 昼食（さくらモール）
14:15～14:30 移動（さくらモール ⇒ CLADS、 浜通り交通バス）
14:30～15:30 見学（CLADS+東京電力福島廃炉技術開発推進室）
15:30～15:45 移動（浜通り交通バス）
15:45～16:40 廃炉資料館見学
16:40～18:00 移動（浜通り交通バス）
18:00 いわき駅解散

<受領資料>

- (1) 東京電力第2原子力発電所及びCLADS 見学に関する資料（SCENet 作成）
- (2) 東北地方太平洋沖地震とその後の福島第二原子力発電所の状況について（東電）
- (3) 福島第二原子力発電所からのお知らせ（東電）
- (4) 廃炉国際共同研究センター概要（JAEA）
- (5) 東京電力廃炉資料館パンフレット（東電）
- (6) 1～4号機の状況（1F 見学時入手資料）

2. 2F(1F)見学

今回は、1Fと同様の津波被害に遭いながら辛くも冷温停止を達成した福島第二原子力発電所（以下2F）の視察を中心に計画した。2Fは炉心溶融を免れたため、原子炉本体により接近した現場への立ち入りを行うことができた。4号機の原子炉建屋に立ち入り、使用済み燃料操作室からガラス越しに使用済み燃料プールを視察した。また、格納容器内のペダスタル内部に立ち入り、原子炉圧力容器の底部（炉心の直下）にもぐりこむことにより、林立する炉内計装用シンプルや制御棒駆動機構を間近に観察することができた。

3. JAEA 廃炉国際共同研究センター(CLADS)

2F 見学終了後、1F 見学の2名と2F 見学者17名が廃炉資料館で合流し、さくらモールの飲食コーナーでそれぞれ昼食をとった。昼食後19名で同じ富岡町にある廃炉国際共同研究センター（CLADS）に向かった。

約1時間（14:30-15:30）の訪問に対し、JAEAの浅妻新一郎氏からVTRによりCLADSの施設概要について次のような30分間程度の説明を受けた。

廃炉国際共同研究センターの中核となる国際的な研究開発拠点「国際共同研究棟」を東京電力ホールディングス福島第一原子力発電所（1F）近傍に整備し、国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築して、廃止措置を推進するというもの。CLADS 英語名称の後半3字は、Advanced Decommissioning Science（先端廃炉科学）の頭文字である。福島だけではなく、チェルノブイリなど、事故を起こした世界中の困難な廃炉を研究する事によって、人類に貢献する事を目的としている。今まで人類が経験した事の無い、

極めて困難でチャレンジングな研究対象である。世界と共同しながら、必ずや安全な廃炉を進めるべく、研究開発を進めている・・・という内容である。

その後、CLADS 内に居室を構えている東京電力福島廃炉技術開発推進室と JAEA の各研究室を案内していただいた。その後、別建屋の実験施設を案内いただき、次の訪問先（廃炉資料館）に向かった。CLADS では、昨年度から文科省を財源とする廃炉関連研究の取りまとめ業務を担っているようであるが、それらの研究のほとんどが各研究機関への委託となっており、富岡町は研究拠点としての機能をどこまで果たしているのかについて明確な説明がなかった。短時間の訪問であることと、浅妻氏のご案内のポイントの焦点がその点にはなかったのかも知れないが、報告者には物足りない印象が残っている。CLADS 訪問時の各人の感想は末尾の感想欄を参照いただきたい。その他、訪問時の様子は、添付の写真に示すとおりである。

4. 東電廃炉資料館

CLADS 訪問後、最後の訪問先である廃炉資料館に向かった。廃炉資料館は、1F 見学者の受け入れ拠点の機能を兼ねていることから、1F 見学者 2 名の送迎の折に既に 2 回立ち寄っていた。そのため、今回で 3 度目の訪問となったが、本来の目的である廃炉資料館の見学のための訪問としては初めてである。

廃炉資料館は富岡駅から徒歩 20 分程度の 6 号線沿いにあり、震災前はエネルギー館という名称で 2F の PR 館として機能していた。3. 11 以降、業務を停止していたが、J ビレジの機能縮小に伴い、1F 見学訪問者の受け入れ施設として機能を再開した。そして、昨年 11 月から廃炉資料館として生まれ変わったが、1F 見学者の前線基地としての役割は継続している。

19 名の見学者が揃って、大型スクリーンで 1F 事故の紹介の VTR を見た後、2 班に別れて、それぞれの係員の先導に従って資料館の展示物を見学した (15:45~16:40)。廃炉資料館は 1F 見学者の訪問拠点となっており、訪問者が事故の状況をあらかじめ理解する、あるいは、見学した後に、見学内容を振り返るといった目的には良い展示がされており、それなりの機能を果たしていると感じた。1F を見学しても、バスの中からさっとした説明を聞いただけでは細部の理解が行き届かないところに対して、補足的な機能を果たしていると感じた。ただし、東電による廃炉 PR 料館と呼ぶべきもので、大部分は東電のストーリーによって東電が提供するデータによって語られる。これは安全神話の二の舞になりかねない。また、“責任を曖昧にする資料館” (<https://level17online>) , “廃炉資料館の印象 北村俊朗” (<https://www.enercon.jp>) などの指摘するとおりであると感じた。JAL の安全啓発センターのようなものを想像すると、違和感があったのではないかと思う。報告者の個人的感想としては、廃炉資料館として本来の機能を発揮するには 10 年、20 年の期間を要するのではないかと ? と思う。